



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



司教の手紙

ミサのカテケージス⑤ (最終回)

鹿兒島教区司教 中野 裕 明

教区の皆さま、お元気でしようか。

今回はミサの核心部分についてお話しします。それは、聖変化の所です。司祭はカリスを取り、祭壇上に少し持ち上げて唱えます。

「皆、これを受けて飲みなさい、これはわたしの血の杯、あなたがたと多くの人のために流されて罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血である。これをわたしの記念として行いなさい。」

この言葉は、最後の晩餐の時にイエスが発した文言です。叙階の秘跡を受けた司祭だけがこの言葉を発します。

司祭は、キリストに成り代わって、(in Persona Christi) の言葉が発します。それは、2000年前に発せられたイエスの言葉が今、その場で再現されるためです。

流れる時間(ギリシャ語でクロノス)の中で発せられたイエスの言葉が、時間を超えて、いつも現在である「時」(ギリシャ語でカイロス)として、流れる時間の中に現れるのです。それは、会衆全員で唱える次の文言で分かれます。「主よ、あなたの死を告

げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで」。

これは「信仰の神秘」と呼びかける司祭に回答するものです。因みに典礼書の指針は、「会衆はこの文言をはっきりと唱える」と指示しています。

さて、先ほどの御血の聖変化の言葉と、それに続く、「信仰の神秘」への回答の文言との関連性について説明しなければなりません。

ん。

イエスは最後の晩餐でのイエスの先の言葉を発してから、捕らえられ、翌日裁判にかけられ、死罪を言い渡されて、十字架刑で死亡します。しかし、ご自身が予言していた通り、三日目に復活して、弟子に現れたのです。

信仰の神秘の文言は、復活したイエスに出会った弟子たちの応答なのです。つまり、最後の晩餐で発した

意味です。

私たちはミサ中、共同祈願の所で天の御父に向かっていろいろなお願いをします。特に現在、ウクライナやパレスチナのガザ地区に一時も早く平和が訪れるように祈っています。実に、ミサ全体が本来、平和を祈願するものであると言えます。

ミサ中、司祭は何回も「主の平和が皆さんとともに」と会衆に呼び掛けています。

聖体拝領前の交わりの儀式では、会衆が主の祈りを唱えた後、司祭は会衆を代表して、次のように祈ります。

「いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、世界に平和をお与えください。あなたのあわれみに支えられて、罪から解放され、すべての困難に打ち勝つことができまうように。わたしたちの希望、救い主イエス・キリストが来られるのを待ち望んでいます。」

世界の平和のために祈った後、司祭は、「主よ、わたしたちの罪ではなく、教会の信仰を顧み、おことばのとおり教会に平和と一致をお与えください。」と続きます。

つまり私たちは他人様の平和を祈願するだけではなく、私たちの間の平和と一致をも祈願しているのです。

す。それから、会衆はお互いに「平和のあいさつ」を交わし合います。これは和解を意味しています。

「世の罪を取り除く神の子羊」に懇願するものです。世の罪を取り除く神の小羊とは、十字架の上で生贄とされたイエスのことを指しています。そして、その意味は、まさに最後の晩餐での御血の制定の言葉通りです。因みに「世の罪」とは、人類の罪の総体とも言ってもいいでしょう。

ヨハネ福音書の冒頭では、光を拒絶する闇のことを指しています。「光が世に来たのに、

人々はその行いが悪いので、光よりも闇を愛した。(中略) 悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみ出されるのを恐れて、光の方に来ない。」(ヨハネ 3:19)

このことがいわゆる「世の罪」であると言えます。そして、いよいよ、私たちは、このイエスを拝領することになります。

私たちはいろいろな動機でミサに与かることでしよう。ミサの本来の呼称はエウカリスチアというギリシヤ語で、直訳すると「良いめぐみ」という意味です。日本語では「感謝の祭儀」とか「ミサ聖祭」と呼ばれています。つまり私たち人類にとつて、ミサは「すべての善の源」と表現しても過言ではありません。

心の内に秘めた神への信仰を目に見える形で、しかも信仰を持つ仲間と連携するために主日のミサに参加することは大切です。私たちの信仰は教会の中で生まれ、教会の中で育つのですから。

カトリック教会は主日のミサに参加することは信者の務め(義務)と定めています。

が受洗後に死をも恐れない悟りの境地に至ったことに言及し、洗礼の喜びによって死を受け入れたことで、レオ七右衛門はイエスの死と復活にあずかった。これは暗闇から光のもとに出る喜び、皆も受洗の喜びを再確認しようというメッセージを送った。

ミサの終わりに再び福者の取次を祈り、その列聖を求め祈りが唱えられ、この日の殉教祭が締めくくられた。

奉獻生活者と共にささげるミサのご案内

日時：2024年1月27日(土) 14時
場所：ザビエル教会
司式：中野裕明司教様、小隈憲士神父様

鹿兒島教区では、毎年2月2日(主の奉獻の祝日)の前後に、教区内の奉獻生活者が集まって召命の恵みを感じ、新たな召命の恵みを祈っています。

新型コロナウイルスへの対応も落ち着きを見せてきた今、教区の皆様方の参加を得て、私たち奉獻生活者のために祈っていただき、また鹿兒島教区の上に司祭・修道者の新たな召命の恵みがあるように共に祈りたいと思います。

当日はミサ後、茶話会を準備しています。久しぶりに信徒の皆様方にお会いして、交わりを深めることができれば幸いです。お友達を誘って是非お出かけください。多くの皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

鹿兒島教区修道女連盟シスター一同

受洗の喜びは死の恐れを超える

レオ七右衛門殉教祭で司教が言及

2008年11月に福者にあげられたレオ七右衛門の殉教を記念し、その熱き信仰を手本としようとする「福者レオ七右衛門殉教祭」が、11月12日(日)午後、川内教会(主任司祭T・メニツヒ神父)であった。

川内教会庭にある記念碑



久しぶりに地元信徒以外も受け入れて実施されたこの殉教祭には教区各地から80人ほどの信者が駆けつけ、メニツヒ神父、泉神父、末吉神父らも共同司式したミサで祈りをささげた。ミサで説教した中野司教は、レオ七右衛門

信徒にできることへの挑戦を願う

教区評議会における司教講話 Ⅱ 要旨Ⅱ

10月にあった教区評議会では、中野司教が集会祭儀の司式や司祭の召命について「信徒の意識改革の必要性」を訴えた。教区報では司教講話の要旨をお伝えする。

今回の鹿兒島教区評議会のテーマ「小教区における集会祭儀と司祭召命の必要性」については、司教評議会とコンベンツス(全司祭集会)で話し合われたもの。教区評議会は第2パチカン公会議の後にできたもので、100年に一度開かれる公会議やそれを補うように設置されたシノドスの問題点を補修するべく「ともに歩む」ために、情報交換の場となるよう、横のつながりを充実させるためのもの。これに倣い小教区によって異なる様々な問題をこの評議会でも共に分かち合っていきたい。

今回のテーマ選択にあたっては、大熊小教区の問題が念頭にあった。大熊小教区の主任司祭(鄭成淳神父)は、仁川教区から期限付きで派遣されている司祭で、この12月に帰国する。鹿兒島教区では通常、人事異動は4月に実施するため1月から3月までの3か月間、司祭不在となってしまう。とは言っても主任司祭代行を置くなどの手立ては考えられるし、すでに徳之島地区や南薩地区の教会では「集会祭儀」は助祭によって実施されている。

今日は教会の考え方を共通理解として持つ機会として「信徒として」を共に学ぶことができることを共に学ぶというのである。

マルティン・ルターは「万民祭司職」を唱える立場から、カトリックと袂を分か

ちプロテスタントとして独自の路線を歩むことになるが、カトリック教会はトリエンツ公会議においてミサについての教義を固め、第2パチカン公会議になると一層、明確にしていった。

これらの公会議による最後の晩餐を起源とするミサは、復活されたイエスと出会うためのもので、司祭がキリストに代わってパンとブドウ酒を聖変化させる。つまり神と人々の間に教会(秘跡)があると定義づけたのである。

信徒と司祭の違いについては、カトリック教会の中にもプロテスタント的な考えが入りつつあるのは事実。今こそ教会はその本質を保ちながら、新しくなっていく必要があるし、そのためには痛みを感じることもある。

鹿兒島においては、司祭が足りない現状。そうなるに信徒の出番となる。信徒にも「自分がやらなければならない」という使命感が出る。そうすると信徒の養成が必要になっていく。今後を考えると若い人たちがどうやって教会を支えていくのかポイントになる。それは教会の刷新が必要というところ。これらのことを念頭に置きながら、司祭不在の時の集会祭儀については大熊小教区をモデルケースとしていきたい。

まずは信徒として協力できる役割者を養成する必要が生じる。これについては

来年4月から始められたらと思っている。聖変化やゆるしの秘跡の聴罪は司祭のみに限られるが、信徒がキリストの祭司職に参与するという意識でレベルアップして欲しいと願っている。毎月1回程度の講座を開き、その講座を修了した信徒に集会祭儀を司式するデンプロマを与えたいと計画している。

次に司祭召命が圧倒的に足りていない現状を感じ取って欲しい。私は福岡と東京の神学院を体験してきた。その中で感じたのは、私たちが育てられた1970年代の神学校と現代のそれが大きく違っているということ。私たちが養成された時代は神学生の数が多く、また大神学院ともなると高校を卒業した18歳の学生が中心だった。それが、私が東京の神学院で働く頃

になると30歳を超えた、社会人経験者ばかりというふうに変化してきた。ジョークの一つだが、「どんな司祭になつてほしいか」という質問にある信徒は「普通の司祭」と答えたという。普通とは、特に司祭にとつて普通とはどういふことなのだろうかと思えさせられる。

フランシスコ教皇は神学生養成の権限を聖職者省に移し、叙階までを「初期養成」と呼んで、養成が生涯一続きのものであると明示した。司祭による性的虐待が発覚したことも踏まえ、世の中の動きを捉えた上でローマは改革をしている。信徒の皆さんにお願いしたいのは、司祭にふさわしい人(我が子であっても)を見つけて欲しいということ。我が子を司祭職への道

人々の優しさに触れた旅

WYD2023リスボン大会感想文

= 2 =

青年担当 李秉徳神父

WYD2023リスボン大会のテーマとなる聖書の言葉は「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」(ルカ1:39参照)です。その言葉を通してイエス様は私たちに招かれました。その招待にこたえて大会に参加した私たちは、マリア様と胎内におられるイエス様に会った喜び、エリサベツと洗礼者ヨハネが味わった喜びを感じる事ができました。多くのイエス様に出会ったからです。

外国人である私たちを温かく迎えてくれたホームステイのホストであるイエス様に出会い、いつも笑顔で私たちのスケジュールに同

なることには犠牲性が伴うことかもしれない。「私があなただを選んだ」という神の言葉を信頼して、司祭にふさわしい人を見つけて、送り出すこと、支えることも信者のとても大事な役目だと思ふ。

私の中にいた洗礼者ヨハネ、すなわち私の信仰は踊りながら喜び、すべてに感謝することができました。WYDリスボンでの喜びは私に小さな聖霊の火種を伝えてくれました。これからその火種が燃え上がるように頑張らなければならぬように努力しなければならぬと努力しなければならぬと考へています。この思いを神様に捧げます。(鴨池教会主任司祭)

また、私たちの安全のために日陰のないところで汗を流しながら立っている警察であるイエス様にも出会うことができました。イエス様に会った喜びの中で、

行してくれたボランティアであるイエス様に出会うことができました。また、私たちの安全のために日陰のないところで汗を流しながら立っている警察であるイエス様にも出会うことができました。イエス様に会った喜びの中で、

汗ばむほどの強い日差しの中でさざげられたこの日のミサを司式したのは、ラサール修道会での誓願式のために欠席となった中野司教に代わって泉浩二神父(司教総代理・玉里教会)と鹿兒島市内で働く4人の司祭。信者たちの参列は70人ほどだった。

ヨハネ福音書の朗読後に説教した泉神父は、11月には墓の祝福、1月には各家の祝福を続ける奄美大島の

習慣を紹介し、家で、墓で祈ることの意義を説いた。その上で祈りは洗礼を通して得た「恵み」であると訴え、「祈ることで見えないものに結び合わせられ、恵みを広げさせてくれる」と祈りの大切さについてメッセージを送った。

ミサの終わりにには墓参の祈りが唱えられた後、18人の司教、司祭が眠る司祭墓地や信者の墓に灌水と献香がなされた。また司祭墓地には参列者一人ひとりが線香を手向け、お世話になった司祭たちの永遠の安息を祈る姿が見られた。

またこの日には奄美大島でもカトリック納骨堂前広場で死者のために祈りがさざげられた。

▼牧師神父の会
11月8日(水) ザビエル教会であった神父牧師の会では、インターネットを利用して、レデンプトール宣教修道女会テオドラ総長によるウクライナの惨状と現地で働く、修道女たちの様子が紹介された。

待降節中には
カリタス鹿兒島への
ご協力をお願いします

1995年2月に設立された「弱い立場に置かれた人々への支援を最優先にする」カリタス鹿兒島では、特に待降節中にご協力をお願いします。ご協力くださる方は、下記の郵便振替口座をご利用ください。
口座番号：02030-2-8359
加入者名：カトリック鹿兒島司教区
※通信欄に「カリタス鹿兒島」と明記して下さい。



▼短信
11月8日(水) ザビエル教会であった神父牧師の会では、インターネットを利用して、レデンプトール宣教修道女会テオドラ総長によるウクライナの惨状と現地で働く、修道女たちの様子が紹介された。

+KABAYAN SEKSIYON+
Ang Pangako ng Emmanuel
 "Ang Birhen ay magdadalantao, magsisilang siya ng isang anak na lalaki. Emmanuel ang tawag sa kanya."
 (Is 7:14)

Sa kontekstong pangkasaysayan nito, ang propesiya sa itaas ay hindi tumutukoy sa isang paglililihi ng birhen sa matagal pang panahon. Naghahain ang propeta ng tanda kay Haring Ahaz tungkol sa dinastiya ni David na inuusig ng kanyang mga kaaway-isang batang lalaki, malamang na sa lipi ni David, ngunit nalagay sa sinapupunan sa likas na paraan, ay isisilang na, na siyang maglalarawan ng pagkalinga ng Diyos sa kanyang bayan. Ang batang lalaking ito ay tutulong upang mapanatili ang angkan ni David at kung kaya'y magiging tanda na ang Diyos ay "patuloy na sumasaatin," ang kanyang bayan.

Sa orihinal na Hebreo, ang babaeng manganganak ay ang 'alma-birheng dalaga.' Ngunit ang Pitumpu/Septuaginta, ang salin sa Griyego ng Bibliang Hebraea, ay nagsalin dito bilang parthenos-"birhen." Nakikita ng Ebanghelistang si Mateo, na nagpapaliwanag ng "sino" at "paano" ng kakanyahan ni Hesus, sa propesiya ang isang kaaya-ayang batayan mula sa Kasulatan para sa pananampalatayang Kristiyano kay Hesus. Kay Hesus natatagpuan ng propesiya ang ganap at ibayong katuparan nito. Si Hesus ay tunay na ipinanganak ng isang Parthenos (si Maria); ang katawan ni Hesus ay napasa-sinapupunang birhen sa kapangyarihan ng Espiritu Santo, at hindi sa pamamagitan ng pakikipagtalik sa isang lalaki. At dahil sa siya'y Anak ng Diyos, si Hesus ang tunay na kumakatawan sa katawagang Emmanuel, na ayon kay Mateo ay "ang Diyos ay sumasaatin." Isa pa, si Hesus ang tumatawag sa sarili nang ganito bilang Nabubuhay na Mag-uli, at patuloy siyang kapiling ng mga naniniwala sa kanya, at sa kanila'y nangako siya: "Tingnan ninyo ako'y kasama ninyo palagi, hanggang sa wakas ng panahon" (Mt. 28:20).

Para kay Mateo at sa komunidad ng mga mananampalataya, at si Hesus ang Emmanuel sa kanyang kapanganakan at patuloy siyang maging ganoon magpakailanman.

Katesismo Tungkol sa Liturhiya (Fr. Dino Orolfo)

大柵教会で奉仕作業

奄美大島の信徒が力を合わせる

10月14日(土)、大島郡大和村大柵集落にあるカトリック大柵教会(小宿小教区)の清掃活動を実施しました。大柵教会は1961年(昭和36年)に献堂され、1965年には214人の信徒が在籍した教会です。しかしながら最近では、信徒の転出や高齢化により信徒数も減少しております。



大柵教会のある小宿小教区(主任司祭フランシスコ神父)には、知名瀬、根瀬部、大和浜、大柵の巡回教会があります。「各教会の清掃を」となっても、大木の伐採もありますし、小教区の信者だけでは労力が足りず、そのため木々が覆い茂るなど苦慮しております。

ました。そんな今年の夏に泉浩二神父様の発案で、「奄美の信徒たちで何とか大柵教会の作業を実施してほしい」との依頼がありました。その呼びかけに賛同するように小宿小教区の信徒を中心に島内の各教区から30人(50歳代・80歳代の男性20人、女性10人)が集まりました。作業開始前に久保芳一神父様とごミサを捧げ、大柵集落信徒の柳原さんから感激の声をいただきました。

イグナチオの霊操⑥

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥

原理と基礎

これまでイグナチオの生涯を簡単に見てきました。涯を簡単に見てきました。が、今回から「霊操」のテキストを見ていきたいと思います。

人間が造られたのは、敬い、仕えるためであり、こうすることによって、自分の霊魂を救うためである。また、地上の他のものが造られたのは、人間のためであり、人間が造られた目的を達成する上で、人間に助けとなるためである。従って人間は、そのものが自分の目的に助けとなる限り、それを使用すべきであり、妨げとなる限り、それから離れるべきである。あるから、私たちの自由意志に任せられ、禁じら

人間が造られたのは、敬い、仕えるためであり、こうすることによって、自分の霊魂を救うためである。また、地上の他のものが造られたのは、人間のためであり、人間が造られた目的を達成する上で、人間に助けとなるためである。従って人間は、そのものが自分の目的に助けとなる限り、それを使用すべきであり、妨げとなる限り、それから離れるべきである。あるから、私たちの自由意志に任せられ、禁じら

この「原理と基礎」は4週間の霊操に入る前に確認しておくべきことで、「説明を要しない人間の理性、または信仰にとつて自明な認識で疑うことのできな確実な知識」という原理であり、この基礎の上にこれからの黙想、観想が行われます。

ペドロ・アルペはこの「原理と基礎」は「基礎工事」のようなもので、基礎が強ければ強いほどより堅固な建造物が建てられるように、この基礎が強いほど

待降節になると洗礼者ヨハネのことが書かれている箇所が第二主日で朗読されます。

ルカ福音書では「神の言葉が荒れ野でザカリヤの子ヨハネに降った」とあります(3・2)。この「言葉」と訳された言葉は原語では「語られた言葉」や「言われたこと」を意味します。であれば旧約聖書のどこかで語られた神様の言葉を踏まえているはずで、そこで思い起こされるのはエゼキエルの預言の「主の言葉がわたしに臨んだ。」

《康由神父の聖書教室》68

洗礼者ヨハネと荒れ野

箇所と何らかの関係を持たせてヨハネのことを書いてみると考えられます。着目したいのはエゼキエルに見られず、ルカに見られる「荒れ野」という言葉で

裁きを退け、更に、わたしの安息日を甚だしく汚した。それゆえ、わたしは荒れ野で、憤りを彼らの上に注ぎ、彼らを滅ぼし尽くそうとした。」と使われています(エゼキエル20・13)。

潜在的にもっているものと云えます。その罪とは神様の御旨に反することでもあり、時として偶像礼拝という大きな罪でもありました。そのような罪を今こそ悔い改める時が来たからこそ神の言葉はヨハネに荒れ野で降ったと表現されているのではないのでしょうか。

【吉野教会ファックス番号変更のお知らせ】吉野教会のファックス番号が変わりました。新しい番号は以下のとおりです。099(243)3777。

会と催し 12月

- 3日(日) 待降節第1主日
- ▼宣教地召命促進の日(献金)
- 「宣教地召命促進の日」を呼びかける教皇庁使徒聖ペトロ事業の目的は、すべてのキリスト者が宣教地の地元の司祭と神学生、男女修道者と志願者を育てる必要性を意識し、物的援助だけでなく、祈りと犠牲によって、「収穫のために働き手を送ってくださるよう」に、「収穫の主に」願います。当日の献金はローマ教皇庁・福音宣教省に集められ、全世界の宣教地の司祭養成、男女修道者の養成のために用いられます。
- ▼聖フランシスコ・ザビエル司祭
- ▼中野裕明司教霊名記念ミサ・カテドラル・18時
- ※ミサ後、教会ホールで茶話会
- ▼小川靖忠神父叙階記念(1972年)
- ▼貴島丈弥神父叙階記念(2015年)
- ▼ヴィンセント神父叙階記念(2006年)
- 8日(金) 無原罪の聖マリア
- 9日(土) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 10日(日) 待降節第2主日
- ▼カトリック教師の会・鴨池教会・15時
- ▼糸永真一司教命日(2016年)
- 15日(金) 木陰実神父命日(2019年)
- 17日(日) 待降節第3主日
- 19日(火) 有馬信茂神父命日(2007年)
- 20日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 21日(木) ムイベルガ神父命日(2022年)
- 23日(土) 松永正男神父叙階記念(1969年)
- ▼聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 24日(日) 待降節第4主日
- ▼オリーブの会・教区本部・14時
- 25日(月) 主の降誕
- 26日(火) 聖ステファノ殉教者
- 27日(水) 聖ヨハネ使徒福音記者
- ▼寝占教之神父、末吉卓也神父、川口茂助祭霊名(使徒ヨハネ)
- 28日(木) 幼子殉教者
- 29日(金) 霧島彬神父叙階記念(2018年)
- 30日(土) マルケット神父命日(2020年)
- 31日(日) 聖家族
- 【司教日程】5日愛の聖母園、6日司祭生涯養成委員会、10日鹿屋教会、12日牧師神父の会、15日大口明光学園、16日東京大司教区補佐司教叙階式、25日愛の聖母園

- ### 祈りの意向
- #### 【祈祷の使徒会】
- 教 皇 障がい者
日本の教会 召命

聖書通読に挑戦しましょう！

教区聖書愛読運動係

日本の教会では1997年から毎年「聖書週間」が設定されていて、今年は11月19日から26日でした。私たちの教区では、教区シノドスの提言に基づき聖書愛読運動を展開中ですが、その中の一つとして「聖書通読」に取り組んできました。第1回目は新約

聖書編(77人完走)、第2回目は旧約「歴史書」編(38人完走)、第3回目は旧約「歴史書」編(25人完走)を実施してきました。完走者からは①新発見があった ②新約と旧約のつながりが分かった ③神のいつくしみに触れることが出来た、など素晴らしい感想が寄せられています。

今回の第4回目はまた「新約聖書編」を実施したいと思います。すでに完走した人は再挑戦を、初めての方は思い切った挑戦してみてください。参加案内をご覧になって小教区や団体ごとに教区本部宛申し込んでくださ

い。申し込んだ方には、通読表と完走報告のながきを送付します。沢山の方の参加をお待ちしております。

「聖書通読」は、とにかく聖書を全部読み通すことを目指すもので、意味が分かるようにと分けるまいとただひたすら読み通すものです。聖書の読み方は色々な種類がありますが、「聖書

通読」はできるだけ早く読破しようとするものです。1. 通読のねらい 2 主日のミサでは旧約と新約のみことばに3回ほど触れますが、聖書全体として何が書かれていたかは意外と知りません。全部読んでみたいと思つてチャレンジしてみても、レビ記あたりで投げ出すのが落ちではないでしょうか。通読は粘り強く最後まで読み通すことを目標としてい

表に従つて読み進めていきます。読むスピードは各人の事情によりますが、とにかく読み続けます。読んだ所は通読表にチェックマークを記入していきます。読むペースとしては1日3章位はいいかと思いますが、まずは思い切つて挑戦してみてください。

3. 通読の秘訣 ①速読で一気に読む ②分かつても分かつても読む ③ちよつとした合間に読む ④家庭、グループ、教会などで親しい方々と一緒に読む ④祈りながら、神がわたしたちに何を示そうとしていたかを考えながら読む、こなどを心掛けたらいいか、でしようか。「聖書において、天にまします父は深い愛情を持って、常に自分のこどもたちと会つて、互いに語り合ふのである。」(啓示憲章21)

2年ぶりに43回目の総会

奄美カトリック女性連盟

10月29日(日)、古田町マリア教会において「奄美カトリック」の総会が開かれ、各小教区から70人を超える会員の出席がありました。

今回の総会は、創立当初の原点に帰ることを強く意識し、「アツパ 父のもとに帰ろう」をテーマにいたしました。「奄美連」が初心に帰るために最も相応しい方にご講話とごミサをとお考え、コンベンツアル修道会の外山祈神父様をお願いいたしました。

今年の総会は、創立当初の原点に帰ることを強く意識し、「アツパ 父のもとに帰ろう」をテーマにいたしました。「奄美連」が初心に帰るために最も相応しい方にご講話とごミサをとお考え、コンベンツアル修道会の外山祈神父様をお願いいたしました。

主の言葉を信じて「奄美連」は再スタートすることができました。講話の後、感謝のミサは外山祈神父様と松永神父様、山浦神父様によって捧げられ、感謝のうちに総会を終えることができました。



コロナ感染防止の観点から活動休止状態が続き、またある不祥事によって、「奄美連」創立以来40有余年に渡る活動記録や機材、資料が全て失われるという残念なこともあり、活動が再開できるかどうか危ぶまれる状態でしたが、今回第43回総会の開催にこぎつけ

今年3月に叙階され、奄美地区各小教区で初ミサを捧げられました。そのミサに与った多くの会員から、神父様の聖なるものへの敬虔なお姿に感動し、満たされた気持ちになりました。の感想が寄せられました。

講演では「最も大切な錠、神の愛と隣人愛について」分かりやすく、深く、感動的な話を伺うことができました。

各小教区の婦人会の連合体として、ややもすると薄れがちな横の絆を大切に、「私が選んだ」と言われる



要理

真の神様です。またイエス様は肉体と魂をもっていることから真の人間です。イエス様がこの地上でお生まれになったことにより時代が大きく変わりました。それは神様と人間とが平行関係であった時代が終わりを告げたということ。イエス様を通じて人間は神様の言葉や思いを直に耳にすることができるようになりました。また多くの御業を通じてイエス様は神

第4回聖書愛読運動 = 新約聖書編 =

期間：2023年12月3日～2024年3月30日(復活前日)
対象：鹿兒島教区の全信者(聖職者を含む)
主催：鹿兒島教区聖書愛読運動係
※申し込みは小教区ごとまたは教区本部「聖書愛読運動係」へしてください。チェック表と完走報告用はがきを送ります。

後まで読み通すことを目標としてい

2. 読み通す方法 1 通読

旧約時代と新約時代の関係性

旧約時代は、神様が人々と共におられることを現す方であることを見ました。そのことにより、人間の歩みは神様の永遠の御許へと歩みを変えたのです。このことからイエス様がお生まれになった後は新約時代と呼ば

この弟子たちの活躍により教会が立ち上がり、徐々に新約聖書と呼ばれるものが編纂されていきました。旧約聖書と新約聖書はまったく別なものではありません。旧約も新約も救い主であるイエス様を中心として二つで一つの「聖書」なのです。

ことを弟子たちが理解したのはイエス様の死と復活によつてです。イエス様の御受難にあつて逃げ出した弟子たちでしたが、復活したイエス様に再会して聖霊を頂きました。これによりイエス様を見捨てたという弟子たちの罪意識は氷解し、迫害を恐れずに福音を告げ知らせる勇気をもらつたのです。